

「前書き(2)」

使徒1:1~5

1. はじめに

- (1) 新約聖書の約25パーセントがルカの著作である。
 - ①ルカの福音書と使徒の働きは、前編と後編の関係にある。
- (2) この書が書かれた目的は何か。
 - ①歴史的目的
 - ②神学的目的
 - ③弁証論的目的

2. アウトライン

- (1) 献呈の辞(1~2節)
- (2) 復活後のイエスの奉仕(3節)
- (3) 使徒たちへの命令(4~5節)

結論：弟子たちが変化した理由

- (1) イエスが復活したという確信
- (2) 神の国のプログラムの理解
- (3) 力の源の発見

使徒の働きの前書きについて学ぶ。

I. 献呈の辞(1~2節)

1. 1節

Act 1:1 テオピロよ。私は前の書で、イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き、

- (1) テオピロとは誰か。
 - ①ルカの福音書と使徒の働きは、ともにテオピロに献呈した形になっている。
*もちろん、多くの読者を想定して書いていることは言うまでもない。
 - ②ルカでは、「尊敬するテオピロ殿」となっている。
*「尊敬する(クラティストス)」は、ローマ高官のタイトルである。
*使23:26、24:2、26:25では「閣下」と訳されている。
 - ③テオピロには、「神を愛する人」と「神に愛されている人」の両方の意味がある。
 - ④このような書き出しは、紀元1世紀のローマ世界では一般的なものであった。

*ユダヤ人の歴史家ヨセフスもまた同じような書き方をしている。

- ⑤テオピロは、ルカの執筆活動を支援するパトロンであった可能性が高い。
- ⑥もしそうなら、テオピロはローマ人クリスチャンであったと思われる。

(2) 1~2節は、ルカの福音書の要約である。

- ①「**前の書**」というのは「ルカの福音書」のことである。
- ②ルカの福音書の目的は、イエスの生涯の出来事を時間順に並べて紹介すること。

*ルカ以外の3つの福音書は、時間の順にはこだわっていない。

- ③ルカの福音書は、イエスの行いと教えの最初から始まり、昇天で終わった。

(3) 「**イエスが行い始め、教え始められた**」

- ①「**始めた**」という言葉が2度出てくる。
- ②イエスの働きは2千年前に終わったのではなく、今も続いている。
- ③復活のイエスは、聖霊によって、地上の教会を通して、今も働いておられる。
- ④ルカは、その記録を正確に、時間順に記そうとした。

2. 2節

Act 1:2 お選びになった使徒たちに聖霊によって命じてから、天に上げられた日のことにまで及びました。

(1) 使徒の働きの中の主役は、3者である。

- ①復活し、昇天したイエス
- ②イエスの命令を実行する使徒たち
- ③イエスと使徒たちを結びつける聖霊

(2) 使徒たちは、イエスが「十字架の死とそれに続く復活」の計画について何度話しても、それが理解できなかった。

- ①霊の目を開き、聖書を理解させるのは、聖霊の働きである。
- ②弟子たちは、復活の主イエスから息を吹きかけられ、「聖霊を受けなさい」(ヨハ20:22) とのことばを受けた。
- ③そのとき彼らは、旧約聖書的な意味で聖霊を受けた。

*内住の聖霊ではなく、神のことばを理解させるための聖霊の力を受けた。

(2) ルカの福音書は、イエスの昇天の記事で終わっていた。

Luk 24:50 それから、イエスは、彼らをベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福された。

Luk 24:51 そして祝福しながら、彼らから離れて行かれた。

Luk 24:52 彼らは、非常な喜びを抱いてエルサレムに帰り、

Luk 24:53 いつも宮にいて神をほめたたえていた。

II. 復活後のイエスの奉仕(3節)

1. 3節

Act 1:3 イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

(1) これは、復活後のイエスの働き 요약である。

①復活後のイエスの奉仕は、40日間続いた。

*これは、ルカだけが記している情報である。

②聖書には、復活のイエスが現れたことが、10回記録されている。

③この40日間は、福音書の時代から使徒の働きへの移行期間である。

(2) イエスは、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。

(3) 復活のイエスが弟子たちに教えたテーマは、「**神の国**」であった。

①ユダヤ人がイエスを拒否した時から、神の国のプログラムは新段階に入った。

*これは、メシア的王国(千年王国)が現れる前の状態である。

*これを「奥義としての王国」と呼ぶ。

*今がその時代である。

②マタ13章の多くのたとえ話は、そのことを教えるためのものであった。

*種蒔きのたとえ(4種類の土地)

*良い麦と毒麦のたとえ

③復活のイエスは、マタ13章から教え始めたテーマを継続して教えた。

*神の国は、外面的には「キリストを告白するすべての人たち」を指す。

*神の国は、内面的には「真に救われている人たち」を指す。

III. 使徒たちへの命令(4~5節)

1. 4節

Act 1:4 彼らと一しょにいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

(1) 4節で、ルカの福音書と使徒の働きがつながる。

①「彼らといっしょにいるとき、」

*ギリシア語の「スナリゾメノス」は、「塩をいっしょに食べた」という意味。

*「彼らと食事を共にしていたとき、」(新共同訳)という訳も可能である。

②「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい」

*神の国を拡大する働きに参加するためには、聖霊の助けが必要である。

*聖霊の約束は、最後の晩餐の席ですでに教えられていた(43日前)。

・ヨハ14:16、26、15:26、16:7、13

③この約束は、五旬節の日(使2章)に聖霊降臨という形で成就する。

2. 5節

Act 1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けたが、もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです。」

(1) 聖霊降臨は、時代を画する出来事である。

①ヨハネのバプテスマと新時代のバプテスマが対比されている。

*聖霊が、信者に「聖霊によるバプテスマ」を授ける時代になる。

*「聖霊によるバプテスマを授けられるからです」(新改訳2017)

②聖霊によるバプテスマによって、信者は教会の一員とされる。

③聖霊降臨以降、イエスをメシアとして信じる者は、信じた瞬間に聖霊によるバプテスマを授けられるようになった。

④1コリ12:13

1Co 12:13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

(2) 火のバプテスマについて

①ルカ3:16~17

Luk 3:16 そこでヨハネは皆に向かって言った。「私は水でああなたがたにバプテスマを授けています。しかし、私よりも力のある方が来られます。私はその方の履き物のひもを解く資格もありません。その方は聖霊と火で、あなたがたにバプテスマを授けられます。

Luk 3:17 また手に箕を持って、ご自分の脱穀場を隅々まで掃ききよめ、麦を集めて倉に納められます。そして、殻を消えない火で焼き尽くされます。」

①「火のバプテスマ」は、使徒の働き1:5には出て来ない。

②これは、裁きのバプテスマである。

*将来起こる。

*未信者だけに起こる。

結論：弟子たちが変化した理由

1. イエスが復活したという確信

(1) 使1:3の再確認

Act 1:3 イエスは苦しみを受けた後、数多くの確かな証拠をもって、ご自分が生きていることを使徒たちに示された。四十日にわたって彼らに現れ、神の国のことを語られた。

(2) 弟子たちは、イエスが復活したことを圧倒的な証拠によって確認した。

①イエスは幻ではなく、栄光の体を持っておられる。

②復活のイエスは、食物を食べることができた(ルカ24:42~43)。

(3) 使4:19~20

Act 4:19 しかし、ペテロとヨハネは彼らに答えた。「神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の御前に正しいかどうか、判断してください。

Act 4:20 私たちは、自分たちが見たことや聞いたことを話さないわけにはいきません。」

(4) 弟子たちの証言が、イエスが死者の中から甦ったことを信じる根拠である。

2. 神の国のプログラムの理解

(1) 教会時代は、奥義としての王国の時代である。

①メシアの再臨後に登場するメシア的王国(千年王国)の前の時代である。

②今がその時代である。

③旧約聖書にある神の国に関する約束を、すべて教会が成就すると考えるのは、非現実的である。

④教会の使命は、携挙をもって終わる。

(2) 「種蒔きのたとえ」から学ぶ「奥義としての王国」の特徴

①同じ福音を伝える(同じ種が蒔かれる)。

②それを受け取る人には、4種類のパターンがある(4種類の土地)。

③私たちの使命は、失望せずに福音の種を蒔き続けることである。

(3) 「良い麦と毒麦のたとえ」から学ぶ「奥義としての王国」の特徴

①キリスト教界には、本物と偽物が併存する。

②本物の信者は、普遍的教会に属する。

3. 力の源の発見

(1) 復活のイエスは、聖霊により、教会を通して働いておられる。

(2) 聖霊のバプテスマは、求める必要のないものである。

①イエスを信じたときに、すでに授けられている。

(3) 私たちが求めるべきは、聖霊に満たされることである(聖霊の支配)。

①エペ5:18

Eph 5:18 また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。